

「映画の自由さを感じてほしい」と話す平野勝之監督＝東京都渋谷区で



平野勝之監督3作品上映



公開当時の「愛の街角2丁目3番地」のポスター＝はままつ映画祭提供

はままつ映画祭に来たれ

自由さ感じ 大混乱して

さまざまな自主製作映画を楽しめる「はままつ映画祭」が25、26の両日、浜松市中央区栄町の木下恵記念館で開かれる。ドキュメンタリー映画「監督失格」などで知られる市出身の平野勝之監督(60)をゲストに迎え、20代前半に撮影し映画作りの原点となった8ミリフィルムの3作品を約40年ぶりに浜松で上映する。

25、26日 自主製作ずらり

志が運営を引き継いだ。過去には、映画「男はつらいよ」の山田洋次監督や時をかける少女」の大林宣彦監督らをゲストに迎え、現在は公募した自主映画と招待作品を上映している。

25日は午前10時半から、全国や韓国などから公募で集まった自主映画140作品のうち、入選した11作品を上映。午後7時から観客や映画製作者の交流会がある。26日は午前10時に始まり、招待作品としてブラ



「はままつ映画祭」をアピールするスタッフたち＝浜松市中央区で

ジル短編アニメと浜松や磐田市出身者による映画、静岡文化芸術大学の学生と映画祭スタッフが製作した動画を公開。平野監督の作品上映とトークショーで幕を閉じる。

映画祭の丹野裕道代表(49)は「普段は見ることのない駆け出しの監督の作品ばかりで、製作にかける思いがストレートに伝わってくる。自分の世界を広げるきっかけになれば」と期待した。

同区田町のミニシアター「シネマイーラ」で購入できる前売り券は1日1200円、当日は1500円。入退場自由。映画祭事務局にメール(hamamatsuchinemasales@gmail.com)で氏名と電話番号、メールアドレス、希望日、枚数を送ると前売り価格で予約できる。

詳細な上映プログラムや作品の情報は「はままつ映画祭」で検索。問い合わせは映画祭事務局＝電話090(9939)6558へ。(戸田裕理)

上映される平野勝之監督の映画は「愛の街角2丁目3番地」(1986年、112分)と「人間っつこ対かっぱ」(85年、20分)、「砂山銀座」(85年、40分)の3作品。販売やレンタルをしておらず、上映回数も少ない貴重な映画だ。平野さんは「面白ければ何でもいいやとやけくそになって作った。めっちゃくちゃなので大混乱してほしい」と話す。

けんか別れた恋人たちの再会を描いた愛の街角2丁目3番地は、「AKIRA」などで知られる漫画家大友克洋さんの原作。撮影スタッフの笑い声が入るなど、劇場版ではあり得ない手法を取り入れた。脚本がないままほぼ即興で展開を作り、小学校の校庭にトラックで乗り込むシーンでクライマックスを迎える。観賞した大友さんは「原作・大友克洋」と記されたエンクレジットを見て、「うそつけ」と笑ったという。

作品は、才能豊かな新人映画監督を発掘する「ぴあフィルムフェスティバル(PFF)」に入選し、観客審査投票で1位にも選ばれた。

人間っつこ対かっぱは、橋の下で謎の生命体とかがっばが戦う物語。平野さんは「話なんてあってないようなもの。劇場版でもドキュメンタリーでもない。ジャンル分け不能」と表現。一方、砂山銀座は「まじめに作ろうと思った日記映画」。浜松市内の商店街を三脚に載せたカメラで映し出した。

面白いと思ったら手段を選ばないのが信条だ。「過激だけれど、他者の目を意識して編集し、意図がある映画として成立させている」。その思いが表れたのは砂山銀座の最後。平野さんが実際の交差点に立ち、12分間カメラを構え続けた。クラクションを鳴らされたが「ひき殺される覚悟で車と対峙した。見ている人はハラハラすると思う。音楽や写真ではない映画だから表現できた」と振り返る。10代の頃は漫画を描き、ヤングマガジンちばてつや賞佳作に選ばれたこともある。「ずっと一人で描いていたのがしんどくなった」と浜松経営専門学校(現浜松陽高)にいた18歳から自主映画を製作。25歳で上京し、映画やアルバムビデオ(AV)作品を撮影してきた。

代表作「監督失格」(2011年、111分)は、05年に34歳で亡くなったAV女優林田美香さんと、林さんの元恋人でもあった平野さんらの生や死、再生を描いたドキュメンタリー。アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」シリーズの庵野秀明監督がプロデュースしたことで話題となった。

平野さんが浜松に帰省するのはおよそ5年ぶり。みんなから「コテンパンに言われたらどうしよう。行くのやめようかな」と笑った。